



生存と対立というサイクル

令和7年6月14日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

技術進歩の飛躍は、生存という人類の絶対正義がその新しい現実を与えられるものである。それらは資本主義と競争原理というルールにおいて、そのはるかに飛躍する自己プレゼンスの形成は、その生存と競争という既存サイクルへの疑問を呈するものなのである。

これら飛躍的な現実の拡大は、その資本主義においては豊かさの占有を与えるものなのである。

またこれらが今日の貧困という現実と対峙するとき、どのようにしても既存社会システムへの疑問を与えるものである。

これらは生存競争が支配する日本の現実においてはこれら新たな現実が富の格差における格差社会の形成を与えるものであり、西洋の倫理的価値観とその社会責任という社会システムに対して、コントラストを与えるものである。

これら絶対的なプレゼンスの拡大が技術進歩において与えられるとき、その自己プレゼンスの拡大は、社会における葛藤と矛盾を与えるものであり、その軋みは新たな社会問題の創出を与えるものである。

これらは新しい世界と未来の希求が存在することを意味するものである。そしてそれらが新しいヒーローたちの参加を未来において要求するものなのである。

真の政治家は必ず正しい世界の創造を自己とするものである。それら正しい世界の創造は新たな知性の要求とともに未来という現実に対峙するものなのである。

これらは世界における知性がそのすべての現実を考査し、新しい世界を提案することができるのである。

これらは今日の技術進歩という競争原理の頂点が、知性という選択を新しい世界という選択において模索するものである。

